



**NPO 法人大雪山自然学校
2017年度 事業報告書**

VISION

人と自然が共生する持続可能で豊かな暮らし

私達人間も自然の一部であることを受け止め自然と真摯に向き合い、節度ある行動をとりながら自己実現を達成し、今の自分に幸せを感じながら暮らしている状態を目指しています。共生に向けた実践では様々な問題が発生することでしょう。それらに対して、地域住民ひとりひとりが主体的に目の前の課題について考え、相互に学び、自律的に行動できる社会が、私たちが描く未来の姿です。

- ① 私たちが暮らす地域は、誰もが自由に自然を楽しむことができると同時に、人々の節度ある行動で環境が保たれています。
- ② 私たちが暮らす地域では、自分の夢にチャレンジできる機会があります。
- ③ 私たちが暮らす地域では、地域住民一人一人が主体的に現状の課題について考え、相互に学び、課題解決に向けて行動しています。

MISSION

利用者による環境保全の仕組みづくり

あたり前のように、実践されていないのが「利用者による環境保全」。現代社会では、自然を利用する人と保全する人が分かれていることが多く、利用者は資源を消費する一方で、誰かが資源保全のために多くのコストを払っています。自然を楽しみその恵みを分かち合うことと同時に、元来地域にある共生の知恵と技術を再構築し、それを実践することが私たちの使命です。

ミッション遂行のために、私たちは体験学習の知識と技術を磨きます。市民団体や行政等との連携を深め、より地域に根差し、その地域ニーズにきめ細やかに応える身近なところからの実践活動を行います。

- ① 私たちは、利用者による環境保全の仕組みを構築します。
- ② 私たちは、自律的に行動する利用者・消費者(地域住民・旅行者)を増やします。
- ③ 私たちは、地域理念を追求し、地域資源を活かしながら、地域の価値を高めていきます。

活動内容

① 環境保全活動

大雪山国立公園旭岳周辺での環境保全活動や外来生物防除、森づくり活動など



③ 地域に根差した交流推進活動

大雪山をフィールドにしたエコツアーガイドやキトウシ森林公園での健康プログラム



② 子供自然体験活動

小学生を対象に月に1回実施する自然体験プログラムや長期休暇中のキャンプなど



④ 人材育成活動

自然案内人の養成講座や大学実習・研修生・インターンシップの受け入れなど



2017年度 活動報告

活動内容① 環境保全事業

① 自然保護対策業務

東川町大雪山国立公園保護協会の委託事業として、5/15 から 11/15 に旭岳自然保護監視員 8 名が活動しました。旭岳姿見の池園地における登山道整備や清掃活動、利用マナーの普及活動を行いました。

- ➔ 登山道整備は新たに 7 か所を補修し、過去に実施した 50 か所の経過観察と再補修を行いました。
- ➔ 協力金は 2016 年 877,300 円から 2017 年は 1,224,600 円に増えました。
- ➔ 延べ 179 人のボランティアが参加しました。
- ➔ 情報発信はブログを毎日更新(162 回)しました。また、旭岳ネイチャーレターを毎週(21 回)発行しました。ネイチャーレターは東川町国際交流員の協力で 8 か国語(日本語、韓国語、中国語、タイ語、英語、ロシア語、インドネシア語、ベトナム語)で発行しました。

② 東川町青少年野営場管理業務

東川町の委託事業として、6/10 から 9/30 の期間で野営場の受付や清掃などの管理業務を行いました。

- ➔ 2016 年の利用者は 1817 名、2017 年の利用者は 1554 名でした。
- ➔ 「魅せられる野営場」を目指し、草刈や環境整備を工夫し、野草や周辺環境を楽しんでもらえる野営場となりました。

③ 外来種防除活動

北海道上川総合振興局が事務局を務めるセイヨウオオマルハナバチバスターズと連携し、羽衣公園やキトウシ森林公園での防除活動に参加しています。また、旭岳周辺におけるセイヨウの監視活動を行っています。

- ➔ 外来種問題に関する市民の機運醸成に貢献しています。

④ 野生動物との共存推進事業

5 月、6 月、7 月の 3 回にわたり、エキノコックスの虫下し入りの餌(ベイト)を作成し、東川町内全域に撒きました。全ての舗装道路に 100m 毎にベイトを撒きます。

⑤ 湧駒別湿原再生

2018 年 8 月から旭岳温泉街の湧駒別湿原において、重機により踏みつけられた箇所植生再生作業を専門家の指導の下実施しています。

昨年度は再生のための調査、検証が主な作業でした。

活動内容② 子供自然体験活動

① イエティくらぶ東川校(主催月例)

「北海道の子供が体験すべき自然を訪ねる」をコンセプトに小学生を対象とした自然体験プログラムを年間9回実施しました。東川町、旭川市、美瑛町、上富良野町、置戸町、浜頓別町から延べ61人が参加しました。

- 「道東ワイルドライフキャラバン」では、タンチョウ、オオハクチョウ、エゾシカを観察できました。

② 木育フェスタ in 東川を開催

東京海上日動火災株式会社の助成を受けて、キトウシ森林公園をフィールドに親子向けの「木育」イベントを実施しました。

- ツリーイングやクラフト、薪割りなど多様な木育プログラムを体験してもらうことができました。

③ ひがしかわ水育事業

東川町教育委員会が主催する、幼児から小学生を対象とした「東川の水」をテーマとする自然体験プログラム運営を3回行いました。

- 上流だけではなく、下流への排水を考えるプログラムを新しく作成しました。

④ キトウシ森のようちえん

自主保育「キトウシ森のようちえん」が主催し、大雪山自然学校の事務所を拠点に火曜日から水曜日までの週4日間定期的に森のようちえんを開催しました。また、3月からは内閣府の企業主導型保育事業を活用し、キトウシこどもの森「キトキト」を開園しました。→自主保育から、子供を預けられるようになりました。

⑤ オーダーメイド自然体験プログラム

- 神奈川県立横須賀高校の学生158名の修学旅行を、4テーマ(キツネ・水・エゾシカ・森)に分かれて実施しました。
→3日間かけて個々のテーマを深める専門性の高いプログラムができるようになりました。
- 中国、ベトナム、タイ等、海外からの親子や子供プログラムを受け入れました。
→キトウシのケビンやホテルに泊まり、夏はキトウシ山登山や森のプレイパーク、冬はスキー検定を取得する内容であり、キトウシ森林公園に滞在する長期プログラムができるようになりました。
- 重度障害のある養護学校児童を対象に、キトウシ森林公園の多様な樹種を枝や葉っぱに触れての学習と枝を使ったスプーンづくりを実施しました。

活動内容③ 地域に根差した交流推進事業

① 道新文化センター 高山植物ウォッチング・スノーシュー講座

道新文化センター旭川校で6月～9月に「高山植物ウォッチング」、1月～4月に「スノーシュー講座」を実施しました。「高山植物ウォッチング」は前期・後期で各3回旭岳に通いその時の自然を学ぶものであり参加者は前期 26 名、後期 23 名でした。「スノーシュー講座」は全3回実施し、冬の旭岳自然を学ぶ、冬のアクティビティであるスノーシューを体験するもので参加者は10名でした。

- 旭岳に複数回来てくれる地元の方たちと繋がることができました。旭岳の環境保全活動の支援者になっていくことを期待しています。

② 主催ツアー

旭川集合解散でその周辺の特徴ある自然を訪ねるエコツアーを9回実施しました。参加者は 6/29 松山湿原ツアー4名、7/12 高原沼ツアー6名、8/10 三国山ツアー4名、10/5 駒止湖ツアー9名、10/12 望岳台ツアー5名、1/12 天人峡くるみの沢ツアー3名、2/22 層雲峡ツアー7名、3/8 美瑛白金ツアー5名、4/5 安政火口ツアー6名でした。

→ 今後の活動を一緒に考える支援者となり、その意見をツアー企画に反映することができました。

③ キトウシ森林ウォーキングプログラム

東川町保健福祉課と東川振興公社と連携し毎月 1 回町民向けに森林ウォーキングを行いました。参加者が10名に満たないこともありました。

→ 今後も継続できる仕組み作りを整えることが課題です。

④ インバウンドの受け入れ

北海道宝島旅行社や旭川まるうんトラベルと連携し、外国人旅行者の受け入れを行いました。日本語と英語でガイドをしています。

→ 11 月と 12 月はシンガポールからの旅行者が多く、この時期に雪遊びができるのは旭岳に限られるため多くの旅行者が雪遊びプログラムに参加しました。

⑤ 東川エコツーリズム推進全体構想案作成コーディネート

東川エコツーリズム推進協議会では、エコツーリズム推進法に基づく、エコツーリズム推進認定団体を目指しており、その全体構想案作成のコーディネートを担当しました。

→ 東川町の関係者が集まり、当地域におけるエコツーリズムの在り方を考える機会になりました。

→ この全体構想を UNWTO(国連世界観光機関)が主導する GSTC(持続可能な観光の国際基準)と連携する形をとり、東川のエコツーリズムを世界基準に合わせていく流れができました。

活動内容④ 人材育成事業

- ① ボランティアやインターンの受入れ（環境保全事業、地域に根差した交流促進事業と連動）NPO 法人 ezorock、北星学園大学、旭川教育大学から、旭岳での環境保全事業や子ども自然体験プログラムに、日帰りから最長で4日間の受け入れを行いました。
 - ➔ ボランティアが活動することで、旭岳で環境保全が進められると同時に若者が育つ仕組みづくりができました。
- ② 英語のアドベンチャーガイド育成
北海道運輸局の事業で、北海道アドベンチャートラベル協議会（HATA）と連携し、英語ガイドの育成研修のプログラムづくりと研修会講師（阿寒と旭岳）を担当しました。
 - ➔ 旭岳にて英語ガイドができる人材とつながりました。
- ③ NEAL リーダー（Nature Experience Activity Leader）養成講座の実施
中頓別町、美深町で NEAL リーダー養成講座を実施し、合計 18 名の NEAL リーダーを養成しました。
 - ➔ 道内各地に NEAL リーダー養成を実施することで、今後のツアーや研修で訪れる際に協力者となる多様な地域とのつながりができました。
- ④ 旭川市内中学校の職業講話
旭川市内の中学校の総合的な学習の時間における、職業講話の授業で「NPO で働く人」として、大雪山自然学校の仕事や NPO での働き方についてなど紹介しました。
- ⑤ 「大雪山環境保全プログラム」スタート
パナソニック NPO サポートファンドと地球環境基金の助成を受けて、寄付広報用のチラシや HP サイトなどを作成し寄付募集のための仕組みを整えました。

その他

- ① 北海道アドベンチャートラベル協議会 (HATA)
荒井が北海道アドベンチャートラベル協議会会長に就任し、英語ガイドの育成と北海道におけるアドベンチャートラベルマーケットを呼び込む事業を進めています。
➔ 大雪山エリアにおけるアドベンチャートラベルの受け入れの枠組みを整えています。
- ② サステイナブルツーリズム国際認証の導入に向けて
GSTC(Global Sustainable Tourism Council)が認定する持続可能な観光のための国際認証を日本に導入するプロジェクトに NPO 法人日本エコツーリズムセンターとして荒井が参画しています。日本の観光地が世界基準を満たしている状態にしていくことが目標です。
➔ 荒井が GSTC 公認トレーナーとなりました。日本で 3 人の中のひとりです。
- ③ 特例認定 NPO 法人の申請
北海道に公益性が高いと認められ「特例認定 NPO 法人」の認証を受けました。
➔ 今度寄付者が寄付金控除など税制上の優遇措置を受けることができるようになりました。

助成金リスト

- ① 地球環境基金(大雪山国立公園におけるボランティア育成と持続可能な受入れの仕組みづくり)
事務局のOJTとボランティアを受け入れる仕組みづくりとボランティア向けの研修会を実施しました。
➔ 旭岳自然保護監視員業務におけるボランティア活動の質が高まりました。効率的な運営ができるようになりました。
- ② Panasonic NPO サポートファンド(組織診断・組織基盤強化)
2017年1月～12月の期間で、団体の組織診断や組織基盤強化のための助成を受けました。
➔ 組織基盤強化事業として特例認定 NPO の取得や寄付受付の仕組みづくりなどを進めることができました。
- ③ コープさっぽろ 未来(あした)の森づくり基金
キトウシ森林公園での市民参加型森づくりプログラムでの研修会を実施しました。教育大学旭川校の学生など多くの若者が参加しました。
- ④ GGG国立・国定公園支援事業助成金
➔ 般財団法人自然公園財団から助成を受け登山道補修に必要な備品類の購入ができました。